



～きらめき介護塾の取り組み～

(社)きらめき認知症トレーナー協会 理事
ヘルプズ&カンパニー 社長 西村栄一

2014年コムスン入社後、クレーム、債権、行政対応と後任育成などを経て、2010年ヘルプズ&カンパニー設立。全国の介護事業者に「法令順守経営改善」「実地指導対策」「リスクマネジメント」の支援を行う。

第5回 キッズ講座

小学低学年でも

認知症発信者に

きらめき認知症トレーナー協会で、近畿地区長を務めさせていただいております。地区長の役割は、全国地区長会議での意見提案と議案の討議。そして、地区会議招集と運営です。

その近畿地区会議が今週2/17滋賀、2/18大阪で予定しています。今回は先月行われた会議の情報共有と協会の新しい取り組み「認知症の理解を小学校低学年同士でもわかりやすく伝えられるキッズ養成講座」を近畿150名会員向けに告知する内容となっております。

います。

私事ごとで恐縮ですが、私はバブル世代で50歳になりました。将来、自分が介護を受けるであろう75歳頃には、今の小学校低学年は社会を担う中心であろう30歳前後になっていきます。もし、この世代の子供たちに「介護は嫌」と言われてしまったら、我々世代はどうしたら良いのでしょうか。泣きそうになります。そうならないようにするため、幼少期から介護を「聖域」なものとしてではなく、一般的に知ってもらえることが大事だと思っております。伝える方法としては、「紙芝居」でお披露目します。

紙芝居で誰でも簡単に

そして子供のお父さんやお母さんたちにも知ってもらえる機会を増やしていきたいです。「認知症を専門的な用語や複雑な話でちゃんと最後まで説明出来るのかしら」という心配もご無用です。当会では誰もが同じようにプレゼンできる「台本」があります。それをインストラクターの見よう見まねで習得していきます。口下手な人でも、あがり症の人でも、台本通りに進めれば、振りもそのままプレゼンできるようになっていきます。紙芝居を読むだけなら、小学生でも、また字を読めさえすれば、幼稚園児でも認知症のことを伝えられるようになるのです。

私たちが大人にとっても

「学ぶこと」は「真似ぶこと」から始まります。流行歌のオリジナルを誰かがカバーするのは一緒です。または、昔から落語家の噺をお弟子さんが口伝していくようなものです。大事なことはカバリーした人が自分なりの味をどう出していくかです。

海外でニーズ増
ハワイで開催も

私は、きらめきキッズ講座を日本中の教育に取り入れて欲しいときえ思っています。紙芝居を読むだけなら、小学生でも、また字を読めさえすれば、幼稚園児でも認知症のことを伝えられるようになるのです。私たちが大人にとっても

た時に、「そっぴー海外に行こう」と思い立ちました。

きらめき認知症トレーナー講座は3年前からハワイ、ニューヨークでも開催しています。3年前は10名程度の規模でしたが、現在は累計100名超の在米日本人、日系人に聴講いただきました。間違いなく、全世界でこのきらめき認知症トレーナー講座を聞きたい人が待っています。次はアジア、オセアニア、ヨーロッパなど活動を広げていきます。このように反響の多いきらめき認知症トレーナー講座。興味のある方は是非受講してみてください。早くしないと小学生に先越されてしまいます。